

—特集「腰痛診療 up to date～非特異的腰痛の診療 (1)」—

巻頭言

腰痛診療 up to date～非特異的腰痛の診療



金 景成

日本医科大学千葉北総病院脳神経外科

腰痛は本邦における最も多い愁訴として知られており、日常診療では診療科を超えて多くの先生方がその治療に関わっておられるものと思います。しかし、意外にもその診断は難しく、進化した画像診断によってもその原因を同定できるものは半分に満たないことが知られています。このような腰痛を非特異的腰痛といいます。

いわゆる red flag といわれる腰痛（骨折、感染、癌の転移）以外では、通常投薬や外用薬、リハビリテーションによる介入などが行われますが、これらによっても改善が乏しい場合には、その原因を同定し、特異的な治療へ進める必要があります。腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニア、椎体骨折など、画像で診断できる疾患の治療は、ガイドラインや診療指針なども示されており、治療の標準化がなされています。一方で、腰痛の多くを占める非特異的腰痛は、専門的に診療している医師でも、時に治療に難渋することがあります。近年、一般臨床家にはあまり知られていない非特異的腰痛の治療が一部の専門とする医師によって行われて、良好な成績が報告されています。

これら非特異的腰痛の様々な原因や対処法、治療選

択肢について、腰痛治療を専門としない多くの先生方へお伝えすることは意義があることと考え、本特集を組むことと致しました。画像診断ができない非特異的腰痛について、特徴的な症状や診断法、プライマリーでの対処法、更には専門の治療の選択肢などを、豊富な経験を有する先生方にご執筆いただきました。まず、非特異的腰痛の総説を藤原史明先生（福岡大学筑紫病院 脳神経外科）にまとめていただきました。画像で診断できない腰椎由来の非特異的腰痛については、椎間板性腰痛を河西千太郎先生（整形外科）、椎間関節障害を攝田典悟先生（藤枝平成記念病院 脊髄脊椎疾患治療センター）にご執筆いただきました。また、腰椎周辺疾患による非特異的腰痛については、殿皮神経障害を三原陸先生（脳神経外科）、仙腸関節障害を伊藤圭介先生（東邦大学医療センター大橋病院 脳神経外科）、梨状筋症候群と中殿筋障害を喜多村孝雄先生（脳神経外科）にまとめていただきました。最後に、非特異的腰痛に対する様々なブロック治療について高林直也先生（整形外科）に解説していただきました。本特集が腰痛診療にかかわる多くの先生方の一助になりますことを、心より祈念しております。